

記念物
【史跡】

アダドゥーナ

指定年月日／1980（昭和 55）年 10 月 31 日
所在地／宮良 159



アダドゥーナは、宮良村の歴史に関わりの深い「^{しいむ}下ヌ家敷遺跡」の範囲内にあり、由緒あるウリカー（降り井戸）として古くから人々の信仰を集めている。ウリカーとは、直接水面まで降りて水を汲む井戸のことで、アダドゥーナは深さ 12m、降り道 21m、水際まで 40 段の石段が設けられている。

『八重山島諸記帳』（18 世紀初期）には、「安多手井」と記されている。伝承によると^{しいむ}下ヌ村創建の頃、神に願いを立てて水脈を掘り当てたといわれ、以来、神の水として崇められ、共同井戸として大切に利用されてきた。1771 年の明和と津波で、井戸は埋もれてしまい、その場所も分からなくなったが、神高い人物が位置を示し、掘り返して井戸を再建したとの伝承が残っている。

水道の普及により、井戸は使われなくなったが、アダドゥーナ願いは現在も村の行事として厳かに執り行われており、人々の生活と信仰に密接に関わっている。

市指定

記念物
【史跡】

パイナーカー

指定年月日／1980（昭和 55）年 10 月 31 日
所在地／平得 25



この井戸は、長さ約 20m、40 段の石段があるウリカー（降り井戸）である。ウリカーとは直接水面まで降りて水をくむ井戸のことで、琉球石灰岩の岩盤を削って作られている。平得村の伝承によると、年代は明らかではないが、井戸のある場所付近がナカントウと呼ばれていた頃、ウーリヤー（宇里家）に武勇に優れた 7 兄弟がいて、昼間は彼らが井戸を掘り、夜は神が掘って、この井戸が完成したといわれている。『八重山島諸記帳』（18 世紀初期）には「南風之井」と記されている。

平得村の共同井戸として大切に使われてきたパイナーカーも、一般家庭への水道の普及により使われなくなったが、旧暦 9 月の節祭の 4 日後に行われるカータカビ（井戸の祭祀行事）では、井戸への感謝祈願が行われる。

なお、井戸の周辺からは多くの鉄滓や土器が見つかっており、パイナーカー遺跡としても知られる。